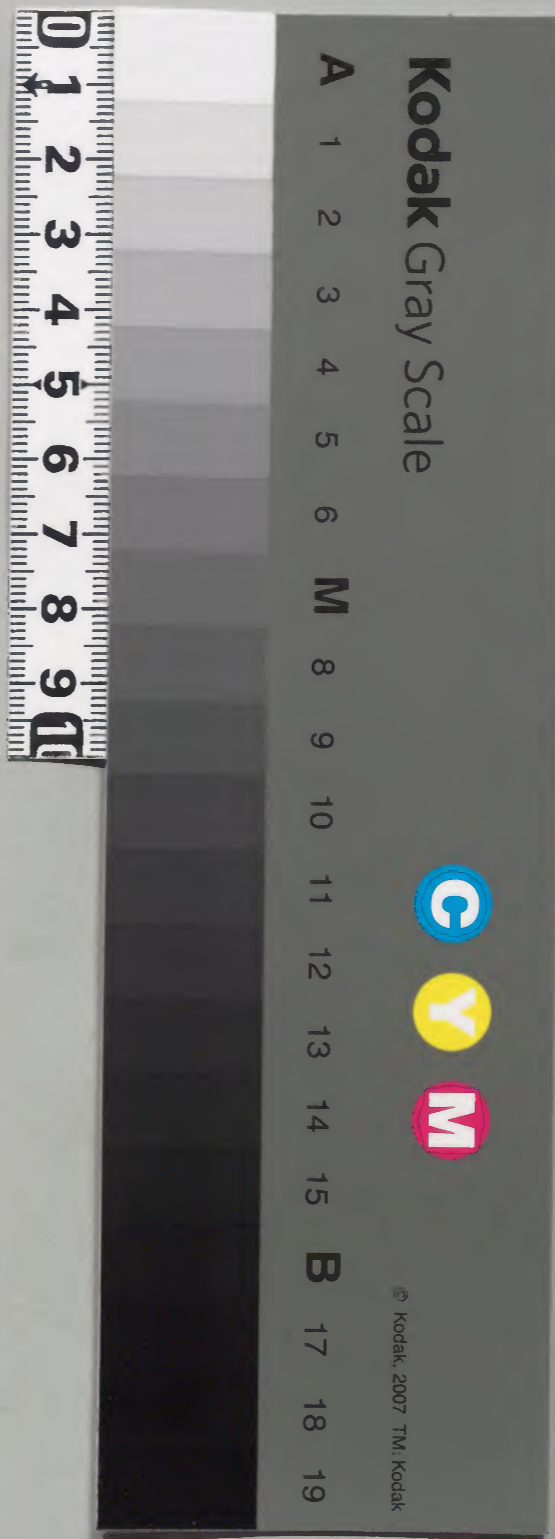


寛永諸家譜

平氏十九冊之内
北条流

86

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186	(66)
函號	特 76	1



糊等で貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



小條

寛永諸家系圖傳

平氏

小條流

小條

淺草文庫

今按^{いま}と^えたりし新九郎長^{あきら}氏を
伊勢^{いせ}小條^{せうじょう}と^いふ河^かを^をたれ伊勢^{いせ}氏の
族^{うぢ}と^いふ也^{なり}今^{いま}氏^し系^{けい}が^が指^さ系^{けい}と
し^しる^るは^はひ^ひく^く河^か改^かより
あれと^とあると

時頼上左ノ系割海

●時改

遠江守

后五位下

義時

相摸守

后五位下

泰時

武藏守

后五位下

時氏

修理亮

后五位下

経時

武藏守

后五位下

時頼

相摸守

時宗 ときむね

相摸守 あいまもり

後五位下

貞時 さだとき

相摸守

後四位下

高時 たかとき

相摸守

後四位下

時房 ときぶさ

相摸守

仍氏 ゆゑし

小次郎

時盛 ときもり

小之郎

新長 ゆきなが

新三郎

長氏 ながし

伊豫新九郎 生玉伊豫

母也

伊豫海中島貞國が女

その母は伊豫氏なり伊豆お控と

いっげくから小原氏と称と

弱年乃也き海中よあり古海海交

れぬ神もや後中一と刀とまふ

聖朝あれ人昆沙門乃文字と彫る

を刀とりく長氏一とはあ

いへく後日一けあひと交る

也相物一去くまももあるとこれ

もあもも累代乃室とす

うち海く伊豫一居領す

文明年中思ひるるに護符化場

ち刀とたつて一隊小石さめ今うて

いふれまゝあひつたふ

長享年中駿河へ一赴こ介燈

今川氏親よ所と氏親おれを

奥國と陣へ一と

延徳年中一岳化かへ一伊豆小原と

うらこいけと難山ようり飯と

内藤中お列小田原の陣とせめ

大森流おちと撃くまよ小山原に

う川系

同三年九月二十三日相列新井城を

せめ時高と撃河高ハ三浦道寸

義父たや

文龜乃ら相列へ一と上秋

取定也きとつり利河

同以上取定政と上秋取定武列久米

河小原陣と少きへ一長氏定政

小と力一久米河小原陣へ一

歌定退る

永正元年と歌定とと歌惣良と

列五川系よりきりきり音氏

今川氏親ももりお良とす

歌定よりち久小に破る

同九年八月十方お列 島崎の城と

せじ城主の備道寸任名乃城

乃がと所歌長氏終り島崎の

城とてくちれお良と

同平道寸中鑑念よとひくき

まご任名乃城をほり道寸新井

乃がととてりよと家客の比と

まへりよと

同十月相列甘縄の城とす

同十二年新井とせり道寸父子

敗免す

同十三年長氏書と此より氏綱

乃がととてりよと今

存小象家の系図をくくさるはた刀
とひ護符と傳授とすべしと

同十六年八月十五日卒と
法名天岳瑞公早雲と号と

女子

長氏の婦 今川義忠の妻氏親の母

氏網

左京大進 長正位下

大永正の武列江戸の城主と称朝興

とすし朝興利ありす

河越の城主 朝興氏網江戸の

城主とすこれをも

同六年十二月十五日里見義弘房列

とす海と渡りて鎌倉小きと

とす合戦と氏網病とす

池向とこれと被り里見とす

しらおのく首とまづる

享祿二年上秋物與河越

とひく率とま子物定共を起

一く氏綱とまづる物定共

敗少と

天文六年七月十五日武列河越

城とせぬ城自物定松山の城に

お奔と松山の城を新波田澤正忠

居城なり

日二十日松山の城とせむ綱定新波田

敗少と

日七年十月下総國生実の城を

義的安房上総の共を起して氏綱

と総列國府臺とてひくまづる

義的利ありとて生実の城を

退く氏綱とれと起せぬ義明終小

敗死す

日十年七月十九日氏綱率とて

五十八 法名使為法云 春松院と号に

幻卷 せんまゐ

あむし〜字ゆわむ

氏康 うぢやす

后京太史 辰巳位下

天文十回子駿列長久保の城とよび
武列河越乃城氏康よ辰巳と今川

義元とよびと秋憲改らる〜く謀
〜あれをせしん〜河越乃
城とせし氏康と〜共〜しき
初〜小田原より〜河越乃地ゆ記
憲改らる〜憲改り去義元
長久保乃城とせし氏康字と
てあれをす〜義元号と〜
志里せ〜あ城
有小金〜

日二十日 氏康の家信 福徳と總介
とく河越の城は西りし
少き一とあ上松とひ右河越氏
軍兵八萬と云きひ本軍と云るを
其し氏康と云き八子と云きさひく
小田原より後して河越より
其中小松と云きこれと松と松
晴氏等敗少とせし河越の軍
少しと云るなり

日二十日 氏康の家信 福徳と總介
とく河越の城は西りし
少き一とあ上松とひ右河越氏
軍兵八萬と云きひ本軍と云るを
其し氏康と云き八子と云きさひく
小田原より後して河越より
其中小松と云きこれと松と松
晴氏等敗少とせし河越の軍
少しと云るなり

く増^{えん}姻^{かん}乃^乃幼^幼とす

同^同年^年十月^{十月}之日^{之日}就^就好^好輝^輝虎^虎大^大田^田之^之衆^衆

おしくみしし小^小糸^糸氏^氏康^康とせうん

ししおて上^上列^列沼^沼田^田しし對^對陣^陣と

しき小^小輝^輝虎^虎引^引退^退く

同^同里^里見^見義^義弘^弘と相^相列^列城^城下^下に

永^永祿^祿之^之武^武列^列岩^岩葉^葉乃^乃城^城下^下

しし属^属す

同^同上^上年^年武^武列^列松^松山^山乃^乃城^城とせめぬ

同^同輝^輝虎^虎と和^和睦^睦す輝^輝虎^虎小^小糸^糸

之^之部^部と養^養子^子ししと糸^糸虎^虎と

あしし三^三部^部と氏^氏康^康があせの子^子なり

元^元龜^龜二^二の十^十月^月の氏^氏康^康卒^卒すと

しし五^五十七^{十七} 法^法名^名東^東陽^陽氏^氏と

大^大聖^聖と号^号す

女子

細^細成^成の室^室

潤成じゆんせいよりあは福徳氏ふくとくしより中なかつに
小糸氏こいとしよりあゝいじ

女子

葛山氏くさやましより妻つま

女子

大田大和守おほのたのちかまもりより妻つま

女子

荷田にわた湯ゆ水みづの室むろ

氏改うぢかへ

后京大夫ごきやうだうふ

后田ごのた恒下つねした

母はは今川氏いまがわし親おや

り女によめ

長氏ながしより中なかつ氏し康やすより中なかつ代しろ乃の

あひより伊豆いづお掾せう武藏むさし上かみ総そう

下しも総そうとと長なが氏し改かへ十八歳じゅうはちさいよりあ

きりひくと地ノ野乃内ノ地及
壹陸の内田郡とせり又信列
小田井小室のあ城とせぬ房列
里見をあらへて服と
永禄六年正月里見義弘安房と総
とて定梁乃共とむきひくは列
國府卷て陣より氏康氏政父子
小田爾より國府卷よ馳りて光縁
利と得すく家臣を山丹波

富永なる妻の爲討死と氏康陰謀と
争ひける故に勝敗とす氏政共
とひきつてこれとら款を殺と
事と相とて款とゆり事
わさす國府卷て川志里そく
氏政奇計とわくす度國
府卷乃下てきりひく大下
是と彼り首と斬事二子余級且
銃率一宗淳正父子田原大吏勝山

其前里見氏初同共初菱野津也
多賀義人が友なる元長南七郎大田
下総守也孫也と教とる乃ち
里見氏改の慶下よ所と

同十二年正月上旬氏改うつり共
ひきつひく信玄の授とらぬ後列三枚
橋奥國と藩原等の城とせめく
これとらぬとすすめ信玄少
奥津藩城小對陣と四月よりりて

信玄引去信玄乃共船と奥津浦
探とられと悔

同六月二十日氏改少信玄後列
加波鳴鳴と對陣と氏改乃共
夜中と信玄乃管中と對陣
翌日信玄退去す

同十二年信玄も後列よつり
元龜元年信玄と為と列よつり
くこれと為りて

日二子 氏改を降し 小陣
佐竹義定とす 小ひくを列
うら回郡とす

天正元年 氏改総列 用宿陣とす
心佐竹義定とす 小ひくを列
とす 小ひくを列
小ひくを列 中勢い
降と

同年 氏改と 氏改と 小ひくを列

隠居 一 載流希とす

日十八年 七月十一日 小田原落城

河野氏輝 とす 小自殺とす

五十二 法名松巖傑云 慈雲院

号す 辞世の頌とす

今氏改採吹毛劔 切破乾坤

那箇

氏並

小糸大吏 母之武田信玄の女

天正八年 敵兵 笠原新六郎

伊豆國 戸倉の城に據て氏並よ

うしき武田勝頼よ降しと勝頼城

下りしんと次氏並も世向く

勝頼少きとて勝頼利と均と

一々甲列と海系

同九年 駿列 一々勝頼と

きくひ氏並利と均と中

同十年 澁川右と右監と列 殿橋の

城一々つとつとつとつとつと

上洛せんとも河一々小糸安房守

少と列 津川一々つとつとつと

安房守 敗軍の氏並一々つとつと

初とつとつとつとつとつと

澁川信列とつとつとつとつと

澁川よきし者これ小糸氏小
降しと

同十一年八月十五日氏連

大権現の御息女とてこれ

同十二年佐竹義宣とと列友是小

對陣し一月より七月よける

義宣和とてしとてせく

同十四年白秀名明王院とて小糸

氏かと海とてしとてし

同十六年小糸義清とてし

海せし

同十七年板部是紙中江電舟と

けりし秀名とてしとてし

あ上列沼田の城と小糸氏と

降しと海しとすべしとてし

秀名とてしとてしとてし

かおは松俣海とてしとてし

きしとてしとてしとてし

家^{いへ}一^いとひく秀名大^{たけなほ}といく家
 名^なとけき^きひ^ひとひく
 小糸氏^{こいとうぢ}とれとす^すとれとち
 家^{いへ}に^に福^{ふく}一^いす^す家^{いへ}の^の謀^{まう}た^たり
 され^され^れ一^いとひく^く名^な卷^{まき}なる^る名^なと
 一^いて^て秀名^{しゅうな}よ^よ謝^{しゃ}せ^せ一^いじ^じ秀名^{しゅうな}さ^さら^らぬ
 一^いく^く名^な卷^{まき}と^とら^らぬ^ぬ一^いく^く名^な卷^{まき}と^とら^らぬ
 とゆ^ゆり^りとす^す

日十八年三月秀名大軍^{たいぐん}といふと

初^とく^く小田原^{とどろり}と^とう^うこ^こじ^じ七月^{しちがつ}といふと
 て^て落城^{らくじやう}と^と氏^ぢ並^{なみ}

大権現^{たいこんげん}の^の皆^{みな}を^をと^とり^りつ^つく^くの^の持^{もち}へ^へよ
 命^{いのち}と^とき^きを^をけ^けら^られ^れく^く高野^{たかの}一^いつ
 の^のぶ^ぶれ

日十九年^{いちじゅうきゅうねん}一^いつ^つと^と一^いつ^つ一^いつ^つ二十
 法名^{ほうな}又^{また}名^な徹^{てつ}と^と松^{しょう}徹^{てつ}院^{いん}と^と号^{ごう}す

某

源^{げん}五^ご郎^{らう} 早^{はや}世^せ

氏房

十郎 母之氏也とあり

忠築城を成す

天正十三年と列友是の合戦に

おかく欲を将

同十八年小田原の城没落のち

氏房もあつて城中へありあり

家臣とありて忠築の城とあり

某

ら—じ濱野源正木村常陸介
同孫市右衛門 不多中務少輔多居
彦右衛門 平忠七之舟等こみせじ
城仲がこころれとまり後
和後ろのかやろく 敵は城とま
文禄元年四月二十日一死と
し—二十八

七郎 依倉子系乃造とあり

某

新太郎

氏時

内記

某

源義

女子

在田少納の室

氏輝

陸奥守

母之氏改とあり

八王の板本右河原橋小山止テあり

城之なり也 氏康とよび氏改

馬了ごひ軍功あり

氏邦

小田原没落乃と此兄わよ氏政とたり
自害と

安房守 母を氏政とふ
鉢形其輪あふ乃城主なるは
浪田の城と合せまり
氏康氏政とふ
小田原没落乃と此加賀大納言に

氏親

隆一と此鉢形乃城よあり

義徳守 母を氏政とふ

薤山 敏林之流ニケ下乃城主なり
薤山 一とありと甲斐乃共と志
心く親と功あり

大権現 涉弱と此と氏親とあり
阿部と涉芳とあり

大権現の御書と頂戴と

天正十八年氏親難山の城と海系
尾張内府位雄福徳乃清乃大吏尚井
伊賀守蜂次契乃彼乃生駒雅重乃
氏親乃福中川右衛門大吏毒太乃大吏
前野但守乃名乃大吏教乃の
とりし是し心氏親乃れと
まゝ事乃れしきり小田原
敗走乃小とびく氏政氏重乃

自筆の書と乃く乃ら乃降と
享長五年二月八日卒と
五十六 法名勝養系乃 一 驛院乃
号と

氏重

右清乃
佐野是柄二ヶ所乃城主乃

氏光 うしろ

右衛門佐

小札の城主なる也

兼虎 けう

三郎

長尾道任の養子となる

女子

今川氏美の室

女子

小糸甚清の氏繁の妻

女子

子兼の親胤の妻

女子

右河内守の妻

女子

岩村太田源忠の妻

女子

武田勝頼の妻

氏盛

美濃守

長正位下

母は上総介綱成女

小田原没落の河父氏親と同

大権現一し一め一出一つ一る一

天正十九年

大権現一し一ろ一く一し一き一て一ま一け一り

奥列九節一一一撥一と一証一と

同年十一月氏盛卒して母秀吉の

命一よ一り一氏盛の遺詔とけい一く

秀吉一し一る一

日二十日朝鮮証文の一も一し一秀吉

きこひくは護屋より赴く
交長也の

大隈現よりきこひをききまじり上校

永勝と征せん少く野列小山小島

内年岡原の合戦より西尾隠岐守

より居す

曰た之も五月十八日より率一と

物より三十一 法名浄春心激

松林院より号す

系

菊子代 早世

系

勅十郎

天正十八年小田原没落のち開白

秀次より秀次自殺のち

大隈現より行くべきこと

安永五年正月二十一日

卯二十一日 法石月照梅菴

松新院と号と

系

松子代 早世

女子

小糸新太郎の妻

女子

白根三郎の妻

女子

東条紀伊守の妻

氏信

義徳守 辰五郎下 母是亦頼

与ら七重の尉系並けみとびしら女

安永十七年しちねん後うしろのよらひらく

大権現おほごんげん一いつ福ふく一いつききくくまま川がわ親おや

河がわ一いつ十二歳じふにさい 鈞命きんめいよらるらくく

名徳院なとくゐん殿の一いつ行ゆくく一いつ海うみ川がわ系けい

寛永二年十月二十四日いちにち一いつ率りつ一いつと

少すく一いつ二十五じふご 法石梅洞ほふしきばいどう系けい書しよ

新真院しんまゐんと号ごう一いつと

氏利うぢり

右みぎと大吏おほし 後うしろとと下した 母はは之の氏うぢ信のぶ一いつ回かい

安永十九年

大権現おほごんげん一いつと

名徳院なとくゐん殿の一いつ禰ね福ふく一いつととまま川がわ系けい

元和げんわ之の子こ

将軍家しょうぐんけ一いつねね福ふく一いつととまま川がわ系けい

寛永七年かんゑいしちねん一いつ後うしろとと下した一いつとと叙ぎよ一いつ

太皇太后御す

同十六日 御命より御書

院事の紐以て

同十九日 御命より

性紐乃若以て

系

武太史

系

八平

氏室

氏部

母之氏伝よ

寛永十二年七月八日

法名月参帝元

氏家

久太史

母之依久乃母

寛永二年

名徳院殿の嚴命ど下こりしむるに氏佐しよが

是迄このまとつとときまり七歳

大権現の伊勢いせ玄げん去き并なり相傳あひたの護符まもり

右刀みぎ為な家いへ小こむむこい

女子

佐久さく乃の源みなもと六む席せきが妻つま

家の紋いへ裾すそ黒くろ之の鱗うろこ



小條

先祖源乃姓福徳氏ふくとくなるなり網成あみなり

乃なり小糸氏こいと網あみ了り所ところす

氏うぢ網あみ善よし子こ止とど壻むすめ也なり

乃なり福徳氏ふくとく乃なり止とど壻むすめ也なり

平姓へいせい小糸氏こいと乃なり

氏網

左京大夫

辰巳位下

網成

小原重光大夫 後上總介と号す

大永元年 実父正成討死乃ち

小原氏網より 原と氏網と名づく

子少く 且婿ととこれより

福清氏とあり 小原氏とあり

相列甘繩乃城より居と

天文七年 網成甲吉五百より

武列河越乃城とより 家上松氏

者吉八万六千餘と 率吉城を

圍敷日これとせしれ 邑落と

了し 氏康甲吉八子とあり

信浩と勝利と 始より上松

氏大よ 敗れり 其のむきと

あつての好へりしを列ねりて
氏康と繁とんとはけと見細成と
橋と伺と城の中より去卒と
これを誓ふ大なり
永祿六年正月房易里見氏とよび
大田三樂総列し出陣と
よび氏康とよび氏政國府喜よ
陣とんとぬるの長き山氏とよび
富永氏先よ進り討死と
いふ

よるく小條氏の共お敗れを安に
よひ細成氏繁父子甲去を卒
我等敵とすわ不きと一敵乃
ほり出たれを誓ふ大よ勝
とよ氏康とよび氏政勝利と
いふ
同十二日小條氏の共お列三増山
よひ大田信玄ときよひ氏康
よよ氏政出陣せられお進り

大^い一^いあひき^きくひく小^こ原^{はら}氏^しの^の出^で
敗^くれと^と去^さり^りし^し経^き成^{じやう}が^が甲^か七^{しち}
獨^{ひとり}敗^くれ^れし^し却^{かへ}り^り却^{かへ}り^り將^{しやう}俊^{しゆん}利^り
氏^しと^とし^しら^らお^おり^り
亨^{かう}祿^{ろく}之^の子^こ經^{きやう}成^{じやう}十^{じゆ}六^{ろく}歳^{さい}より^{より}甲^か率^{りつ}
す^すま^まし^しく^く凡^{およ}五^ご十^{じゆ}七^{しち}の^のあ^あひ^ひし^し氏^し經^{きやう}
と^とし^しび^び氏^し康^{かう}氏^し改^{かへ}之^の代^{だい}惣^{そう}軍^{ぐん}の^の長^{ちやう}
あり^{あり}と^と去^さり^りし^し隣^{りん}國^{こく}中^{ちゆう}心^{しん}共^{きやう}
と^とあ^あひ^ひき^きく^くか^かし^し事^じと^とし^しよ^よそ^そ三^{さん}十^{じゆ}

六^{ろく}度^だみ^みか^か勝^{せう}利^りと^とあ^あひ^ひき^きく^くし^し
と^とあ^あひ^ひき^きく^く人^{にん}呼^よび^びし^し八^{はち}幡^{ばん}と^とし^しし^し若^わ
氏^し康^{かう}乃^の命^{めい}し^しと^とあ^あひ^ひき^きく^く英^{えい}色^{しき}なる^{なる}
北^{きた}の^の口^{くち}方^{ほう}れ^れ旗^{はた}し^しハ^ハ幡^{ばん}乃^の二^に字^じと^と
書^かく^く級^{きゆう}と^とし^しは^は旗^{はた}あ^あひ^ひし^しと^とし^し
い^いま^まに^にあ^あひ^ひき^きく^く
天^{てん}正^{せい}十^{じゆ}五^ごの^の七^{しち}十^{じゆ}三^{さん}歳^{さい}より^{より}
死^しす^す 法^{ほう}名^{めい}道^{だう}感^{かん}

大^い一^いあひき^きく^くひ^ひく^く小^こ原^{はら}氏^しの^の名^な
敗^くれ^れと^と去^さり^りて^て一^い經^{きやう}成^{じやう}が^が甲^{かう}吉^{きち}
獨^{ひとり}敗^くれ^れて^て一^い部^ぶを^を將^{しやう}領^{りやう}利^り
氏^しと^と一^いら^らゆ^ゆる^る

亨^{かう}祿^{ろく}之^の子^こ經^{きやう}成^{じやう}十^{じゆ}六^{ろく}年^{ねん}より^{より}甲^{かう}吉^{きち}率^{りつ}
す^すま^まま^まく^く凡^{およ}五^ご十^{じゆ}七^{しち}の^のあ^あひ^ひき^きく^く氏^し經^{きやう}
と^と一^いび^び氏^し康^{かう}氏^し改^{かひ}之^の代^{だい}惣^{そう}軍^{ぐん}の^の名^な
あり^{あり}と^と去^さり^りて^て一^い隣^{りん}國^{こく}を^を兵^{へい}
と^とあ^あひ^ひき^きく^くか^か事^じと^とよ^よめ^めて^て三^{さん}十^{じゆ}

六^{ろく}度^どより^{より}勝^{せう}利^りと^とぬ^ぬく^くあ^あひ^ひき^きく^く
人^{ひと}呼^よぶ^ぶく^く壺^か八^{はち}幡^{ばん}と^とい^いふ^ふ
氏^し康^{かう}乃^の命^{めい}と^とい^いふ^ふく^く英^{えい}色^{しき}な^なら^ら
北^{きた}の^の口^{くち}方^{ほう}れ^れ旗^かと^とい^いふ^ふく^く八^{はち}幡^{ばん}乃^の二^に字^じと^と
書^かく^く級^{きゆう}と^とい^いふ^ふく^くは^は旗^かの^のあ^あひ^ひき^きく^く
い^いま^まに^にあ^あひ^ひき^きく^く

天^{てん}正^{せい}十^{じゆ}五^ごの^の七^{しち}十^{じゆ}三^{さん}年^{ねん}より^{より}
死^しす^す 法^{ほう}石^{しやく}道^{だう}感^{かん}

氏繁

在馬太史

のらさき陸舟と号す

母を小條氏徳が母ありと氏康の

婿とれ家

天文二十の氏康上列とよび

野列下出陣のとき氏繁十

六歳ありくみづく累代の重忠

高勝の羅后の祚衣着と着

て先下すみゆつ甲古十三人

くらら家このらたつあさりく

福徳氏よりけりつれ重代海前

助包の右刀尖印と志くれせし

祚衣着といぬつとひくあひ

けり

永禄二の昔尾系虎園東下

進發のらに甲古数万と率

て相列す繩乃城と攻城を徳成時

了りあや本の城了りあやく城
中少反惟氏繁一人あやこれ了り
あやく去卒すくれ一あや
あやいあやし氏繁かあやまのあ
てあやまあやあやあや虎は井に
退あよと

同六子國府臺の合戦了り先光
一く鉄固庵と物く多敵あよ
あらほらほと氏繁りあよあや

豫力あやあやあやあやあやあや
鉄指と物
氏改用あよ一進發一て定敵あ
あよび小山結城あやあやあやあや
了り挑あよあよあよあやあやあや
あよあよあよあよあやあやあやあや
中了り池入甲古十箇人あよあ
あやあやあやあやあやあやあやあや
天正五年氏改佐竹氏と退治せえ

その氏繁うらけより飯湫の城いひのまとま
りしに
翌年つぎ四十二歳よんじふにさいふして死しと
法名ほふな一玄いちげん 新室院しんむつゐんと号す

氏勝うらかつ

母はは之小條氏康せうじょううらかつの女むすめ
父氏繁うらかつ死し去さのち氏改うらかつ命いのち下くだり
よるに用もち東あづま惣そう軍ぐん乃の先鋒せんぽうとす

なり
小條氏松せうじょううらかつ田でん尾お張ちやうとよび氏勝うらかつを
所ところより大將たいしやうとす号ごう命いのちを
下くだりて鄰國りんこく乃の首くび也なりいとみ
親おや入いり事こと十四年じゅうしにねんたるに氏盡うらかつ下野しもつけ
國くに下くだりお陣ちんと氏勝うらかつこれよるに
ひ甲かぶつ古ふると率りつして大平山おほひらやま下くだり
きしひを列野りつや列りつあふ乃の軍ぐん
古ふるとより破やぶる首くび田でん百ひゃく八十じゅうはち級きゅうとす

とけ下しとひく件乃款とあ
ひきく事とよそ三つひ氏勝
みか勝利をゆさ
天正十八年小田原没落せん
するとき氏勝山中れ城と海り款
氏勝山に右とつとけり
氏勝一若くいしく秀次すそ
一惣ヶ原一陣とり
若古と率一くれと勢

勝利とゆさ一急一援と
一系一とけりいとけり
とよそ三つひ氏勝とあ
一とけり一氏勝が軍兵日一城
一とけり一五十餘騎あり
これとけり山中城と守勢事
かきゆへ一相列有繩一後
兵と一とけり一井伊若部
一とけり一武部大猫康政
一とけり一中勢

世勝

大指現の嚴命とてけ急よ降参
す包きの旨代使者と送致事之
度了りてふ氏捨此わ降とこれ
よわあ

大指現了りけ急よ降参

進發のとき氏勝先鋒とこれ

大指現用兵入國のと此下總國佐

念と取願

安長五年用兵沙陣の事

大指現の約命とてけ沙陣の前

田中氏初が猶よわ是時乃城と

け此あれとまひ家

大指現之列名田了り沙陣の事

了りてよわく辰列大山の城と

まひ家

大指現用兵とてけ急よ降参

てのら沙入海わ家とこれ

うけきぬりく 丹波龜山乃以昔

とつとむ

同十六のゆー 五十三のふー

死と

氏重

お守

実を保科弾正忠正のち子たるを

大権現乃弟妹

えとわは兄なる先忠と行る

くもゆ松乃城よりわ

安長十三年乃冬氏重十四歳

み

大権現乃鉤命よりよわく江戸よ

お守

お守のまふ多佐渡守と養者

ゆ

名瀬院殿より福よりきくまの家

同十六年一氏重十七歳の少さき

大徳現

名漣な渡わた渡わた渡わたのの最と命のととりりくく小こ條じょう氏し勝かつ

のの養やし子こととががわわるる家か督とくととつつくくここうう

了りょうととつつくく保ほ科かととわわくくここ小こ條じょう

也や称しょうとと今いま年ねん江え戸ど沸わ城じょう乃の塔たつ普ふ

清せいととつつとと心しん

日にち十じゅう八はち日にち大だい久く保ほ相さう摸も与よ以い劫せき亂らんとと義ぎり

くく小こ田でん原げん乃の城じょうとと深ふかくく河かととり

八月はつげつ氏し重じゅう小せう田でん原げん了りょう赴き野の

右みぎ馬ま先さき了りょう了りょうかかりり城じょう普ふととししととしし

車くるま四よ十じゅう日にち小せうくく戸こ沢ざい大だい京きやう亮りやう之の

了りょう了りょう氏し重じゅう江え戸ど了りょう瑞ずい就しゅう

九月くわがつ二十にじゅう一いち日にち夜よ五ご位い下げ了りょう叙ぎよ一いち

おお母はは身み了りょう了りょう但たととここ乃の冬ふゆ佐さ倉くらをを

ああくくここ下した野の留とどりり後のち

同十九日どうじゅうくにち大だい坂さか涉せつ陣じん乃の也やきき氏し重じゅう

柳やなぎ原はら意い江え守まもりり了りょう了りょう先せん鋒ほう乃の

列まりりううかかりり信しんをを――
是こ邊へ――りははれ

名瀬殿氏重なとと――り長瀬の城番
ととははめめ――り河か――り本多佐渡守
疾はやりりととりり――り数日の存是濟
――り是れ氏重佐渡守いとと謂いく
いいくく形かをを先鋒せんととせん佐渡守
けけ名なとと上じやう同どう――り意いすすうう――り
とといいくく氏重しとと大坂お――りり

下かせせ――りいいくく岸和田の城大坂
――り松平伊豆守信名と――
てて在ざきき――り今いま海う津づ――りこれこれり
代しろをを――り氏重し後ご――り嚴げん命めいと
ううけけ岸和田――りゆゆきき城じやう番ばんととは
とといいととりり人ひととと――り人ひと志しららを
入い――りじじうう――りとといいくく泉せん列れつ志
けけりりあありり
大坂和勝おあありり――り豊とよ年ねん二に月げつ

氏重江戸へ還かへ今年このとしの夏なつ大坂
五ご乱らんより氏重 釣命つひのみこととつけ
橋本海道はしもとかいどうとまり申まを款くわん共ともの生なま来きと
ゆせく

元和二年七月より翌年三月
了しりぞいいりりくく日光普請にっこうふしんの役やく仕
ににとと心こころ

同年

名瀬院なせいん破やぶ沙さ上かみ海うみよりより修しゆ在ざい

同四年八月十二日伏見よりいり
翌つぎ年とし九月十二日しゅうがつにじふにちよりより城しろ敷しきとつと心こころ
故ゆづりわわりりくく二十日にじふにち還かへぬぬす

同五年ごとし下野しもの富田とみだとありありてて喜よろこ列り
久く能のの城しろとと筑つくす

同八年九月より十一月まで横よこ次す
賀がの城しろ敷しきとつと心こころ

寛永二年八月十二日大坂より
おとおとししきき翌つぎ年とし八月十二日しゅうがつにじふにちよりより

城番をつとむ

同五年十一月より翌年六月

いづれく江戸城丸の石垣と

三つき伊豆より石運送の役を

つとむ

同九年二月より十月

増上寺沙廊普請の役をつとむ

同十一月より翌年九月二十八日

まで駿列田中の城番をつとむ

同十一年六月

將軍家沙上洛のとき氏重を駿列久能

より伊豆を二条の城丸石垣の

番をつとむ

同十一年十一月二十一日駿府城番をつと

む

翌年正月二十六日めりて江戸小

いづれ大番のつとむ

同十一年十月一日隊下の首を率

て翌日一いつれきて後列の城
甚とるむ

同十四日卯月二十三日隊下乃古と
率翌年一いつれき二条の

城をなほむ

同十六年九月二十八日幸列公能

城とわろこめく下総玉開宿乃

城とまりわ三方と銘と

一ヶいの
繁廣

新在野村 母之小糸氏康の女

氏繁が田男なり兄氏清嗣子なり

このゆへに善く子ありす

安永五年同尔沙陣乃とき父子

少も一長宗とよび大山龜山れ

城一と蕃と

同十七年後府一とひく死す

少一之十九 法名帯知

氏名

新苑 保小正房とあり

母を幸山養ふか女

四歳より父よりとられ六歳より

と

大指現とあり

元和二年

名瀬院殿下湯

寛永九年

於家とあり

四年 下総國山崎村

と

同十三年 五月八日 歳命とあり

歩行の政とあり

翌年 采地とあり 同中田

川邊と泉とあり 武列 養輪村を

氏と

来

孫七郎

母を山内通氏別が女

来

孫九郎

母を

氏守実父并異父兄弟

正重

保科弾正重

正光

保科肥后守

母を近部頼中守の女

正重

保科頼貞

早世

二人之氏重異母の兄也

家廣

内膳 松平と一忠正の子

母は

大権現乃伊妹

信吉

伊豆守 松平と次郎忠吉の子

母は家廣とおろし忠正の兄也

乃ら忠吉の母也

忠頼

左衛門

父母信吉也

二人之氏重異父の兄也

女子

黒田執前守室

女子

母を正妻と同一と正妻を
のら正妻より嫁すけより以下
氏重同父同母なり

安部房清の妻

母なり

正貞

保科源正の妻

母なり

女子

小出大和の妻

母なり

女子

加賀式部少輔の妻

母なり

氏重

小泉出羽の妻

母なり

幕まくの紋もん 裾すそ黒くろ之の鱗りん取と
襪わくの紋もん 白地しろちよ八幅やんぱい大おほ美み蔭かげ

福嶋くしま

● 頼光よりみつ

孫津守ひろつね

頼國よりのくに

孫津守ひろつね

頼綱よりのつな

孫守尉ひろもり

孫田下ひろのり

國書 くに しょ

流列ノ位と 山縣之部ニ号す

國改 くに かい

赤院次友 あかいはんのだうじん 長五郎下 山縣先生 やまがたのせんせい
少号す

國時 くに とき

赤院次官 あかいはんのだうじん 落合三郎 おちあひのさぶら
秀永ニ由義伸のをりり討系

國盛 くに せい

山縣義人 やまがたのよしみ

國經 くに ね

山縣判友代 やまがたのはんともしろ

國氏 くに ぢ

山縣六郎二郎 義人

國親 くにちか

福徳三郎 くしやう

國基 くにもと

福徳五郎

基宗 もとむね

福徳左衛門尉 こゑのしやうげん

義人

基仲 もとなか

福徳五郎

基成 もとなり

福徳六郎

親成 ちかなり

福徳左衛門尉

基成 もとなり

福徳九郎

左衛門尉

基正 もとただし

福徳左衛門尉

基九郎 もとくに

正成 よこむら

福徳と徳命 ふくとくのすけ

を列去方の城に をんしうのちがさ

大永元の子孫河津に おほいねのこ

五子解甲列 いごのすけ

武田治虎 むけだのちから

と号す とごうす

と号す とごうす

網成 あみなり

右衛門大吏

